

第二項需用費	第六目招待費	三〇	四〇
	第一目備品費	七五	八五
	第二目消耗品費	五	五
	第三目印刷費	一五	一五
	第四目通信運搬費	二五	三〇
	第二項需用費	七五	八五
第二款會議費	第一目評議員會費	二五	二五
	第二目理事會費	二五	二五
	第一項會議費	二五	二五
	第二款會議費	二五	二五
第三款事業費	第一目評議員會費	七五	七五
	第二目理事會費	五〇	五〇
	第一款事業費	一七三	二〇〇
	第三款事業費	一七三	二〇〇
第一項集會費	第一目總會費	五〇	五〇
	第一項集會費	五〇	五〇

第二項講習會費	第二目教育諸會費	四〇	四〇
	第一目講師招聘費	二五〇	三五〇
	第二項講習會費	二五〇	三五〇
	第一目雜費	五〇	五〇
	第二項講習會費	五〇	五〇
	第二項講習會費	五〇	五〇
第三項視察費	第一目學事視察費	三〇	三〇
	第二目學校視察費	二〇	三〇
	第三項視察費	二〇	三〇
	第三項視察費	二〇	三〇
第四項教化事業費	第一目青年團指導費	一〇〇	一〇〇
	第二目女子青年團指導費	一〇〇	一〇〇
	第三目通俗教育費	五〇	一五〇
	第四項教化事業費	五〇	一五〇
第五項獎勵費	第一目體育獎勵費	一五〇	一〇〇
	第五項獎勵費	一五〇	一〇〇

第一項負擔金	第四款 負擔金	第八項 研究物編纂費	第七項 弔慰金		第六項 旌表費					
			第一目 死亡弔慰金	第二目 雜費	第一目 善行善功勞及影	第二目 雜費	第四目 實業教育獎勵費	第三目 教育研究獎勵費	第二目 支部會獎勵費	
二八二	二八二	二〇〇	一五	一六	四五	五〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	各部六〇圓宛此金一八〇圓 教員會補助八〇圓
二八二	二八二	一〇〇	一五	一六	四五	五〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	
二八二	二八二	一〇〇	一	一	五	五	五	五	五	

昭和五、六年度北海郡教育會基本金收支豫算書

收入

科	目	第一項 負擔金	第六款 豫備費		第五款 雜支出		第四款 負擔金		合計
			第一目 豫備費	第二目 雜支出	第一目 雜支出	第二目 雜支出	第一目 負擔金	第二目 負擔金	
第一款 基本金ヨリ生スル收入	六年度 豫算額	六五〇	六三	六三	三〇	三〇	三〇	三〇	二八二
	五年度 豫算額	六〇〇	七七	七七	三〇	三〇	三〇	三〇	二八二
	附記								三、一四〇

支出

科	目	六年 豫算額		五年 豫算額		附	記
		六年度	五年度	六年度	五年度		
第一款	積立金	三〇〇	四〇〇	三〇〇	四〇〇		
第二項	積立金	三〇〇	四〇〇	三〇〇	四〇〇		
第二款	一般會計ニ繰入	六五〇	五五〇	六五〇	五五〇		
第一項	一般會計ニ繰入	六五〇	五五〇	六五〇	五五〇		
第三款	寄附募集費		一〇		一〇		
第一項	寄附募集費		一〇		一〇		
第一目	寄附募集費		一〇		一〇		
合計		九五〇	一,〇〇〇	九五〇	一,〇〇〇		

第一項	基本金ヨ リ生スル 收入	第二項		第三項		第四項		合計
		第一目	第二目	第一目	第二目	第一目	第二目	
第一項	基本金ヨ リ生スル 收入	五〇〇	六〇〇	四二二	四二二	二	一八五	九五〇
第二項	會員醜出	一五〇	一〇〇	一	一	四	二	一,〇〇〇
第三項	寄附金	一五〇	一〇〇	一	一	二	一八五	九五〇
第四項	株券配當	二五〇	二〇〇	一	一	四	二	一,〇〇〇
合計		九五〇	一,〇〇〇	四二二	四二二	二	一八五	九五〇

(三) 更生後の役員

定款には、理事は評議員會に於て選出するとのみで、別に誰をといふ規程はないが、定款の出來た當時精神決議として、南中北三支部會の正副會長を之に充つる事にしてある。こは連絡上都合がよいからである。

評議員も定款には若干名としてあるが、大體會員數に應じ、中部六人、北部四人、南部三人にして、各部共内一人は町村長を加ふる事にしてある。現今中部では町長一名中等學校長二名小學校長三名、北部は村長一名小學校長三名、南部は村長一名小學校長二名である。

幹事は、釘宮泉氏が十數年引續き事務をとり居たが、今は山木氏が之に代つて居る。

然るに、年々恒例的に行はるゝ教員異動は近時益甚しく、従つて役員の異動を餘儀なくされ、僅二ヶ年の任期内に屢々變更を見る状態である。今、更生後の會長及専任理事をあげよう。

1 會長

小野柄市 自大正十五年六月
至昭和四年九月

利光寅尾 自昭和四年十月及自昭和六年九月
至昭和五年六月及至現在(七年三月)

久枝樞七 自昭和五年六月
至昭和六年九月

2 専任理事

利光寅尾 自大正十五年六月
至昭和四年四月

板井市五郎 自昭和四年四月
至昭和五年三月

柴田實 自昭和五年六月
至現在(七年三月)

附 録

郷 土 年 表

天 皇	神 武 天 皇 景 行 天 皇 成 務 天 皇 五 年
元 紀	795
摘 要	<p>神武天皇帥諸皇子舟師東征至速吸之門時有二漁夫乘艦而 至…… 爲諸道者乃特賜名爲椎根津彦此倭直部始祖也神武記 本郡佐賀關町に祀る椎根津彦神社はこれにして、今は縣社に列 せらる。</p> <p>景行天皇、熊襲征伐に當り、御舟を泊し給ひ、最勝藻を採りて進 め給ひし地を、最勝藻門後穗門といふ。</p> <p>秋九月、諸國に令し、國郡を以て造長を立て縣邑に稻置を置かし む。</p> <p>豐國造……宇那足尼……比多造……止波足尼 國前國造……牟佐自命</p>

欽明 天 十一年	欽明 天 二十年	敏達 天 四年	同 十三年	崇峻 天 四年	推古 天 十三年	文武 天 二年	稱徳 天 二年 <small>神護景雲二年</small>
1210	1219	1235	1244	1254	1265	1358	1427

眞名長者(炭焼小五郎)百濟の蓮城法師を迎へ、三重内山に蓮城寺を建つ。

眞名長者、三重内山より白杵深田に移る。

白杵深田満月寺の石佛成る。

祇陀・療院、施藥、安養、快樂、の五院を創め、十三佛、二十五菩薩、二金剛陀、釋二尊、等大小百餘軀の佛像を懸崖石壁に刻む。

日羅百濟より來る。

日羅、九六位圓通寺を創む。

二月十五日眞名長者寂す(九十七歳)

豐國を豊前豊後に分つ。此の年、海部郡より眞珠を献す、丹生の名之より起る。

佐伯宿禰久良麿を豊後守とす。久良麿、海部郡穗門に居る。

堀河 天 承徳元年	近衛 天 仁平中	安徳 天 元暦元年	後鳥羽 天 建久七年	龜山 天 文永八年	後村上 天 康安元年	後花園 天 永享七年	御土御門 天 明應二年
1757	1314	1844	1856	1931	2021	2095	2153

八坂神社を創む。

源爲朝、父爲義に追はれ豊後に來る。海部郡白杵莊は六條判官源爲義の所領なり。故に爲義は爲朝を己が所領たる白杵莊に追ひたるなり。

正月二十六日、白杵惟隆、緒方惟榮、兵船八十二艘を源範賴に献じ味方す。

大友能直、鎮西奉行を兼ね、豊前豊後守護職に補せらる。正月十一日總勢千八百餘人を率ひ鎌倉を發し、三月十日、濱湧浦に着し立石に館す。

蒙古襲來。大友賴泰將士を率ひ博多に防ぎ大に功あり。

白杵時直、水上城を策き田篠原に館す。

足利義教、大友親綱の來謁せざるを怒り、伊豫の河野通久、中國の大内をして親綱を討たしむ、姫嶽にて大に戦ひ、河野通久敗死す。大友の軍白杵親教戦死す。

大友政親、白杵心源寺を創む。同三年、白杵海藏寺を建つ。

同	後柏原天皇 永正十年	同	同	同	同
明應五年	後奈良天皇 天文十一年	天文十九年	同	同	正親町天皇 永祿六年
2156	2173	2202	2210	2223	
<p>白杵義直、大友義右に従ひ長門に戦ひ戦死す。</p> <p>佐伯惟治、海部郡愛宕神社を祀る。尺間山是なり。</p> <p>秋、葡萄牙人フランシスコ神宮寺浦に來り珍奇を獻じ互市を乞ひ鳥獸及天主教を傳ふ。翌年儒者植田立佐を彼國に遣はしたるも客死す。</p> <p>大友義鑑及び其の寵子八郎、其の家臣田口藏人鑑忠及び津久見等に害せらる。世に之を大友二階崩といふ。二月十日なり。</p> <p>大友義領家を繼ぐ。</p> <p>大友義鎮、新城を丹生島に築く。大友軍師角隈越前守石宗及明智十兵衛光秀等繩張りし、六月上棟、鎮城の加持は若宮大官司高山鎮實之を務む。八月吉日宗麟此に遷り居る。</p>					

白杵城築城後

永祿六年 2223	紀元	天皇	將軍	國事摘要	藩主	郷土摘要
元龜元年 2130	正	親	足利 義 榮 輝		大友 義	<p>永祿六年八月大友義鎮丹生島に築き居る。白杵の街衢繁盛となる。</p> <p>白杵城址今の公園是なり。</p> <p>永祿八年府内白杵に基督教院を設け日本基督教徒の根據地となる。</p> <p>又互市貿易の業般にして外舶の入津頻繁爾後九州第一の繁榮を極むるに至る。</p> <p>永祿十二年大橋寺を産島に創む。</p>

天正
元年
2233

後

町

秀

豊臣

長

信

織田

昭

天正十年信長明智光秀に害せらるる十一一年秀吉大阪城を築く。

鎮

天正三年夏、明の宗帝使を臼杵に遣はし義鎮に國書及虎、象、孔雀、鸚鵡、書畫錦繡を贈る。
天正四年、葡人大砲を義鎮に獻す。
天正六年、義鎮島津氏を伐たんとし兵を日洲に出し大に耳川に戦ひ敗れ歸る。

天正十四年十一月島津義久の軍來りて臼杵城を攻む。大砲を發射し薩軍許多討たると雖、薩軍の侵入により神社佛閣は焼かれ財物は掠められたり。
天正十五年五月廿三日大友宗麟津久

文祿
元年
2252

慶長
元年
2256

陽

吉

文祿元年秀吉朝鮮に兵を出す

統

福原

直

高

太田

見の兎表に薨す。年五十八
天正十六年天皇聚落第に幸するに當り稻葉貞通供奉す。
文祿元年豊臣秀吉朝鮮を伐つに當り大友義統兵六千を率ひ従ふ。二年三月小西行長明兵と平壤に戦ひ敗るゝや罪を義統に歸し秀吉に譴す。秀吉怒つて義統の封を没し、太閤の侍臣福原直高に與ふ。
慶長元年七月十二日、地震ひ海溢れ大分灣瓜生島没し、海嘯臼杵に及び潮水氾濫し臼杵原山香林寺坂に至る迄浸水の災を受く。
福原直高は石田三成の女婿なり秀吉にすゝめて豊州咽喉の地として府内に封す。

太田一正臼杵に封ぜらる。

元和
元年
2275

後

成

秀

康

家
徳川

慶長十四年家康和蘭
人に通商を許す
元和元年大阪落城豊
臣氏亡ぶ

典

通

貞
稻葉

正

一

慶長五年石田三成兵を關原に擧ぐる
に當り一正西軍に黨す。東軍中川秀
成竹田より來り攻む。西軍敗るゝを
聞き一正城を棄て去る。十月十四
日一正の封を没す。
慶長五年十一月稻葉貞通濃州郡上よ
り臼杵に移封せらる。
同六年貞通紫雲山龍原寺及び正覺山
多福寺を創む。
慶長八年九月三日貞通薨す。五十八
歳、京都智勝院に葬り智勝院殿と號
す。
慶長十三年清光山月桂寺を創始す。
慶長十四年蠻船下ノ江港及中津浦に
來り貿易を行ふ。
元和元年五月稻葉典通世子一通と兵
を發して大阪の役に従ふ。

元寛
永
2284

明

尾

水

家

忠

寛永十四年九州の基

一

通

此年本町商家火を失し二王坐海添中
小路燒盡、又三の丸より出火祇園洲
附近、南田町の外城市の大半烏有に
歸す。之を卯年の大火といふ。
寛永元年津久見島を竹生島と改む是
頂上に辨才天の祠を立てたるによる
此年典通末廣村善法寺を仁王坐村に
移さしむ。
寛永三年十一月典通臼杵城に薨す年
六十一臼杵月桂寺に葬る。
寛永六年大橋寺を今の森島の頂上に
移す。
寛永八年多福寺を仁王坐切通より原
山に移す。
寛永十一年見星寺を田町に建つ。
寛永十三年馬埒を海添五味浦に築く
現時の祇園馬場是なり。

元承 應年 2312	元明 曆年 2315	元萬 治年 2318	元寬 文年 2321
明		後西院	靈
家			
通			
<p>承應元年六月午頭天王を離宮に祭り七日より十五日迄神事を行ふ是れ祇園市の始なり。</p> <p>承應三年平岡村に諏訪明神を祀る。</p> <p>明曆二年始めて平清水川に圮橋を架設す長四十五間巾二間半庶民喜ぶ。</p> <p>同三年十一月常心尼の爲めに平岡村に眞如院を創建す。</p> <p>此年外教を信する葛木村喜兵衛を捕へ長崎に護送す。</p> <p>寛文元年初めて江無橋を架す。</p> <p>寛文三年平清水天神社を再建す。</p> <p>寛文十年七月州崎に百間土手を築く此年明鏡山雲台寺を創建す。</p> <p>封内人口男三萬三百九十六人女二萬五千五百四十三人なり。</p>			

元慶 安年 2308	元正 保年 2304
光	後正
光	
<p>督教徒亂を島原に起す</p> <p>寛永十六年家光和蘭人の外西洋人の渡來を禁す</p>	
信通	
<p>寛永十五年稻葉一通諸士を従へ廣礮に狩し牧馬十四頭を獲たり。</p> <p>同十六年本光山青原寺を海添に建つ</p> <p>同十八年一通江戸に薨す年五十五家臣小川内藏可は江戸に後藤市郎右衛門は白杵青原寺に殉死す。</p> <p>同十九年竹林山法音寺を二王坐に建つ。</p> <p>同二十年五味浦馬場に午頭天王の離宮を營み神輿を奉じ祭禮を行ふ。</p> <p>此年稻葉信通末廣明光山(花見山)に觀花の宴を催す。</p>	

元正 年德 2371	元寶 年永 2364
中	東
宣	吉
東降砂幕府全國に砂除の課を出す	元祿十五年大良良雄等主君の仇を復す
元祿三年德川綱吉孔子の廟を江戸湯島に建つ	
通	知
元祿七年五月廿日景通白杵城に薨す年五十六月桂寺に葬り本光院と號す	元祿十四年二月報時鐘を原山に設く
寶永四年八月住吉神社を松島に建つ同年十月四日地震ひ、海嘯き、浸水丈餘溺死十四人皆山に避難す。同年幕命により藩主恒通砂除の課一千一兩を納む。正徳二年二月十一日月桂寺失火延焼百七十五戸。	

元元 年祿 2348	元貞 年享 2344	元天 年和 2341	元延 年寶 2333
元		綱	綱
通		景	
同二年正月大火類焼二百五十五戸。		延寶元年六月廿四日信通江戸の邸に薨す年六十七。 同二年稻葉景通庶政を更張して初めて評定所を置き家老用人側衆社寺奉行大目附町奉行郡奉行の諸役をして國事を評議せしむ。 古橋上の樓櫓を漏刻所と定め以て時を報ずる事を始む。 四年六月硝樂所を州崎に設く。 延寶八年景通諏訪山の山莊に遊び十二景を選び侍臣をして各詩を題せしむ。 城頭龜松、山庵寒樹、月桂晚鐘、姫嶽暮雪、州崎松原、風成朝霧、蠣江魚舟、諏訪晴嵐、猪崎歸帆、琵琶崎月、松島夕照、竹島眺望是なり。 元祿元年八月十九日暴風大雨。 同二年正月大火類焼二百五十五戸。	

元文 2396	元保 2401	元延 2404	元寬 2408
櫻	町	桃	
宗	家	重	
通	泰		
<p>日より翌年四月十日迄に救助をうくる者四萬二千七十四人年の故を以て諸士の知行廢し粟米を給す。十二月十四日夜城市大火五百四十戸を焼く。</p> <p>元文二年正月十七日董通江戸の邸に薨す。年三十二</p> <p>五年七月廿一日禹稷合祀の壇を家野松鼻に建設春秋之を祀る。</p> <p>寛保三年八月八日大風雨洪水あり。</p> <p>寛延元年九月十七日大風封内潰家三千二百餘戸に及ぶ。</p> <p>同二年十二月白木、津久見の二嶺に松樹を列植し行旅に便す。</p> <p>同三年六ヶ迫の冷泉を發見す。</p>			

元保 2376	
御	門
家	繼
吉	
<p>享保五年洋書の禁を解く</p>	
董	
<p>正徳五年六月廿五日恒通江戸の邸に薨す年三十一東禪寺に葬る。 (本輪院)</p> <p>享保四年正田不欠建議し望月村に長堤を築く四百七十三間。(不欠土手)</p> <p>享保八年封内大に熟す因て米一萬五千石を村民に借り十年賦に償還す。</p> <p>享十四年六月大に旱す八月十九日、九月十三日大風雨洪水溢る。</p> <p>享保十七年大に蝗あり封内損毛三萬五千百二十石仍て幕府より五千兩借</p> <p>六月廿六日大雷鳴落雷百餘ヶ所大に飢饉し粥を煮て窮に與ふ十一月廿六</p>	

元文化 2464	元享和 2461	元寛政 2449
格		光
<p>天明七年松平定信幕府に用ひらる 寛政四年林子平罪せらる 同年露使初來五年高山彦九郎自殺す</p>		
雍		通
<p>寛政六年江戸邸火災封内に献金せしむ。十二月夷艦來冠。 寛政七年下ノ江に鹽濱を開き初めて鹽竈を築く。 寛政十年十一月封内豊作人民米錢を献納す。 同十二年二月廿五日始めて下ノ江東岸に燈臺を設け商人に命じて店を出さしむ。 同年九月弘通老を告ぐ雍通嗣で立つ享和元年評定所に於て經史の會讀を始め又武術の道場を蛤街に建つ。 同二年末廣皿山に陶器窯を創む。 文化元年八月廿九日大風雨大洪水あり</p>		

元天明 2441	元安永 2433	元明和 2424	元寶曆 2411
園 桃 後		町 櫻 後	
家			
弘		通 副	通
<p>寶曆十三年四月十六日祇園州中ノ町より失火城内及三ノ丸海添新屋敷悉く焦土となる延焼七百十四戸。 明和三年十二月廿八日東鹽田より失火原山より海添に延焼二百九十三戸 明和五年七月二日泰通江戸の邸に薨す。年三十六。 同六年七月四日副通江戸に薨す年十七。 明和八年十二月十一日州崎米倉に火あり米六千五百六十二俵焼失す。 安永二年十二月廿三日節儉の令を下す。 安永六年各村に命じて穀を貯へしむ之を郷倉といふ。 安永九年封内の人口六萬四千八百五十六人あり。</p>			

文政
元年
2478

仁

冠す
文化五年英船長崎を
駭がす

通 尊

通

り領内溺死するもの九十四人牛馬八十八頭流失家屋一千五百三十六軒、田畑損毛高四萬百四十八石農民産を失ひ饑者多し新町口にて粥を給す。文化元年九月儒學會を設く。文化八年十二月廿日三重百姓一揆を起す所在之に應じ蜂起す家老等出張し廿三日鎮定す。文化十年京石清水八幡社修繕の命あり藩主金七千六百兩を献す。文政元年十月廿六日弘通江戸邸に薨す年六十七。文政三年五月六日雍通老を告ぐ尊通嗣で立つ。文政四年八月十七日尊通臼杵の邸に薨す年二十一月桂寺に葬る(本隆院)文政六年豫州松山の産山内久馬勝重

天保
元年
2460

家

齊

文政八年幕府外國船
打拂ひの令を出す

幾

藩士稻川清記に福良柚ノ木谷に於て山内流游泳の秘術を授け爾來同流廣く行はる。同年關東諸川修理の命あり手傳七千百三十四兩を納む。文政九年六月村瀬庄兵衛家老職を命ぜらる先是稻葉恒通の時より藩の會計當らず老公雍通深く憂ひ大脇重澄を擧げて支度の司となし孜々として改革の事を行ふも中途にして逝く村瀬庄兵衛更に任ぜられ爾後大に改革する所あり。天保二年村瀬吉義の建議により總役所を創め政治改革の命を發す。天保四年正月豐受神宮を前田に創む同年同月馬代村山溪を拓き大神宮の祠を營む。天保七年四月より八月に至る霖雨多

元慶 年應 2525	元治 年治 2424	元文 年久 2521	元万 年延 2520	元安 年政 2514	元嘉 年永 2508
明			孝		
茂	家	定	家	慶	
<p>嘉永六年合衆國使節 ペルリ来る 安政元年幕府合衆國 と和親條約を結ぶ 安政の大獄</p>					
久	通		親		
<p>嘉永六年三月金七千五百九兩を幕府 に献じ西城の土木を助く。 安政元年十一月四日申ノ刻地大に震 ふ西の刻海嘯至り辻及祇園州一圓海 水路上に氾濫す倒潰家屋二百七、土 藏百八棟あり。 安政三年儒者役を置き中津の人白石 五郎左衛門及武藤祝を以て儒臣とす 安政四年令を發して種痘をなさしむ 安政五年八月暴瀉病(コロリ)流行す 同六年初夏又流行し多く死す。 切支丹の銅像を踏むを廢す。 文久二年七月麻疹流行次でコロリ流 行す。 同年八月觀通江戸邸に薨す。 三年三月洲崎、本丸、下り松、板知 屋、中津浦、的場山に砲臺を築く。 慶應二年總役所焼失</p>					

元弘 年化 2507	孝
通	
<p>く冷氣甚し七月大風至る天下大饑饉 死者道に横ふ藩内路傍に食を乞ふ者 五百餘に及ぶ城外の辻々及平清水に 於て粥を給し士庶亦米錢を出し封内 一人の餓死するものなし。 天保十年八月州崎に諸役所を合し總 役所を建つ一大政廳なり九月六日成 天保十三年二月總役所内に學校を建 て學古館と號け諸士の子弟を就學せ しむ別に射馭二場を設け文武の術を 習はしむ。 同年四月より勘定所樓上に小侍の子 弟を徵して習字讀書を授く之を南學 古館といふ。 弘化二年正月村瀬庄兵衛老を告ぐ祿 二百石を加賜す(時に旣鷹と號す) 弘化四年九月十八日雍通江戸の邸に 薨す年七十二。</p>	

明治
25年

喜慶

明治天皇踐祚

明治四年全國廢藩置縣大分縣令森下景端

五年八月學制頒布

六年一月徵兵令を布

通

三年五月濱町失火八町に延焼四百十九戸に及ぶ。

明治元年十一月久通藩籍を奉還す。二年六月久通藩知事に任ぜらる。

米價一升四錢。

明治四年七月臼杵縣を置き舊總役所を以て廳舎に充つ十一月臼杵縣を廢し府内町に置き屬せしむ。

五年二月管内に支廳を置き舊總役所を以て廳舎に充つ同年六月支廳を廢して豊後八郡を八大區とす。海部郡

は第四區にして會所を宮河内に置く五年七月臼杵郵便局を疊屋町に置く

六年一月黨民各所に起り縣廳に迫る臼杵士族日下東氏兵士數十を率ひ鎮

定に努む。

一月臼杵町にも土寇南北津留より迫り百方説諭するもきかず終に發砲退

九年十月大分縣師範學校を設置す校長麻生貞樹
十年二月西郷隆盛を討つ

散せしむ。

七年十二月臼杵小學校を州崎總役所跡に開設す又變則學校を創設す學頭菊川虎雄。

九年五月小學校分校を海添村に、九月女子校を祇園州に開設、十年福良に分校を開く。

十年六月一日薩軍臼杵に侵入舊士族八百邀戰す。七日野津大佐、奥小佐の軍來り攻む。賊軍本營とせる疊屋町茶屋に放火し走る。兵火にかゝる家屋三百三十四、戰死四十三名負傷十八名なり。

十一年海部郡を南北に別ち北海部郡衙を臼杵町に置き箕浦父生郡長となる。

十一年八月私立臼杵中學校を開設す同年六月招魂社を公園地に建つ。

二十一年四月自治制を布く
二十二年二月十一日皇室典範帝國憲法を布く
二十三年十月三十日教育勅語下賜

十二年稻葉神社を同地に建つ
十四年三月臼杵警察署を設く。
十五年九月本縣小學科改正教則により初等科三年中等科三年高等科二年の修業年限とす。
十九年四月小學校令改正尋常科四年高等科四年とし尋常科を義務年限とす。
二十年八月郡役所を海添より祇園州に移す。
二十二年四月一日より町村制實施、同年六月海產會社設置
二十三年國會開かる箕浦勝人氏代議士に選ばる。
二十四年豐海新誌發刊社長片岡清松
同年二月臼杵區裁判所設置。
同年臼杵劇場暢心館を祇園州に設置
同年一月十日教育勅語謄本下賜。

同十一月國會を開く

二十七年八月清國に戰を宣し給ふ
二十八年四月下關條約成る

三十四年四月二十九日今上天皇御誕生
三十五年一月英國と同盟を結ぶ
三十七、八年日露戰役
三十七年三月廿七日廣瀬中佐戰死す

同年二月臼杵港を下り松に移す。
同年八月臼杵新聞發刊。
同年同月私立臼杵中學校を私立北海郡郡臼杵農學校に改む。
二十七年臼杵農學校を縣立臼杵農學校に改む。
三十年四月大分尋常中學校臼杵分校設置。
三十一年一月熊本煙草專賣支局臼杵出張所設置。
三十二年三月臼杵銀行設立（三十六年十二月二十三銀行と合併）
三十三年四月臼杵中學校本校となる

大正 元年 2572	
三十八年九月ボート マス條約成る 四十一年七月十七日 大分兵舎新設	四十五年七月三十日 明治天皇崩御 同年九月十二日 明治天皇御大喪儀
大正四年十一月十日 大正天皇御即位式を 擧げさせらる 大正五年大分築港成 る	八年六月歐洲大戰平 和條約成る
四十一年義務教育年限を六ヶ年に延 長。 同年四月白杵町立甲種商業學校設立 四十二年五月白杵町立實科女學校設 立。 四十四年八月三十日山本達雄氏大藏 大臣となる。 大正三年白陽新聞發刊 同四年八月十日箕浦勝人氏遞信大臣 となる。 同五年八月十五日白杵驛開通。 同六年七月上白杵驛開始。 同年十一月莊田平五郎氏金三萬圓を 寄附し白杵圖書館を設立す。 同八年米價一升五拾錢爲めに米騒動 起りたる地もあり。 同年三月二十九日佐賀關久原製鍊所	を建設す。 昭和三年四月町立白杵幼稚園設立。

昭和 元年 2586	
大正十五年十二月廿 五日 大正天皇崩御 昭和元年十二月二十 五日 今上天皇踐祚同二年 二月先帝大喪儀 同三年十一月十日 御即位の大禮を行は せらる	を建設す。 昭和三年四月町立白杵幼稚園設立。

此の年表は、白杵男子小學校訓導加納俊平氏のものされたものであるが、教育上よい参考資料であるから、同氏に乞ふて、ここに掲ぐることにした。

昭和七年六月十五日印刷
昭和七年六月二十日發行

【非賣品】

編輯兼
發行人

柴田實
大分縣北海部郡白杵町大字望月七五二

執筆者

山木德造
大分縣北海部郡白杵町大字二王坐一六〇

印刷人

豐田延董
大分縣大分市南新町二七一三

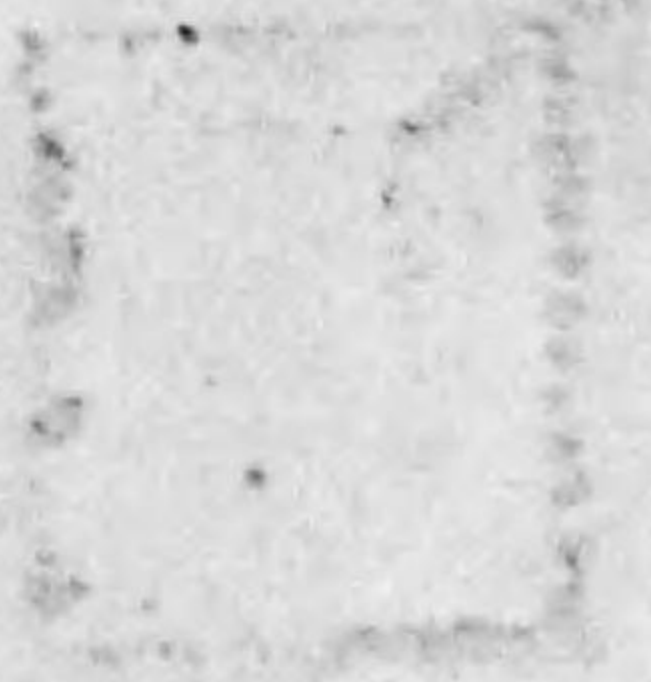
印刷所

豐州印刷所

發行所

社団法人 北海部郡教育會

255
102



終